

地域おこし協力隊の活動日誌

地域の新しい活力をめざして



地域おこし協力隊員の活動をお伝えするこのコーナー。

今回は総務省の特例措置により任期を延長した、竹内庸公隊員と私、二川智南美の活動を紹介します。



子どもたちに学習支援 竹内隊員の取り組み

竹内隊員は、町内の小中学生に新しい学びの場を提供したいと考え、タブレットを使った学習支援や、学習を習慣化させるための個別教室（寺子屋）を開いていました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、施設の閉鎖による場所の確保や対面での実施が困難になり、寺子屋の休会、生徒の退会により活動方法の見直しを余儀なくされました。

新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきた現在は、日向新富駅近くにある子ども食堂内で寺子屋「学び舎ニュートン」を開校し、活動しています。小学3年生〜中学3年生を対象に、学習支援に加え、オンライン教材を活用した全国の子どもたちとの交流を図っています。今後は、子どもたちが自学自習の習慣を身につけながら、コミュニケーション力や主体性、質問する力なども育む場となるよう、地域への認知度や定着度をさらに広げる取り組みを進めていく予定です。



新しいメディアの創作 筆者二川の取り組み

私は前職での編集経験を活かして、新富町の魅力を発信する新しいメディアを作りたいと、協力隊に着任しました。広報誌『広報しんとみ』のリニューアルを新富町役場から打診されたこと、役場に所属することから早く町を知り、人とのつながりができると考えたことから、役場の総務課に所属し、広報誌の編集・制作を担当。『広報しんとみ』のリニューアルを進めながら、新富町に関する知識や人脈を積み上げ、独立に向けて準備を進める予定でした。

しかし、着任後半年で新型コロナウイルス感染症の感染が拡大。イベントや取材は延期・中止に追い込まれ、郷土文化に触れたり町民と交流したりする機会が大幅に減ってしまいました。また独立後の参考にするため、他地域での広報・メディアづくりの活動視察も検討していましたが、新型コロナウイルス感染症による往来自粛や出張の制限によりほとんど実現しませんでした。

4月からこゆ財団へ所属を移し、地域との交流を図りながら、カードを活用して新富町の魅力をPRする新しいメディアづくりに奔走中です。本年度中に形にして、新富町を訪れる人が増えるきっかけを生み出していきたいと考えています。協力隊卒業後も新富町にしっかり定着できるよう、引き続き活動を続けていきます。